

# ヤマキマダラヒカゲ

*Neope niphonica*

ジャノメチョウ科

## 名前の由来

山に多いキマダラヒカゲで、キマダラヒカゲは黄色の斑（まだら）模様のあるヒカゲチョウ、ヒカゲチョウは日陰を好むチョウという意味だと思われる。

漢字名：山黄斑日陰



ヤマキマダラヒカゲ

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

## 特定種

該当なし。

## 形態的特徴

黄土色の斑模様を持つ大型のジャノメチョウ。オスメスについては、斑紋は大差ないが、メスでは翅表第3室の黄斑はオスのように内側に向かって次第に細まらず、その末端近くで急に膨大する。またオスでは前翅

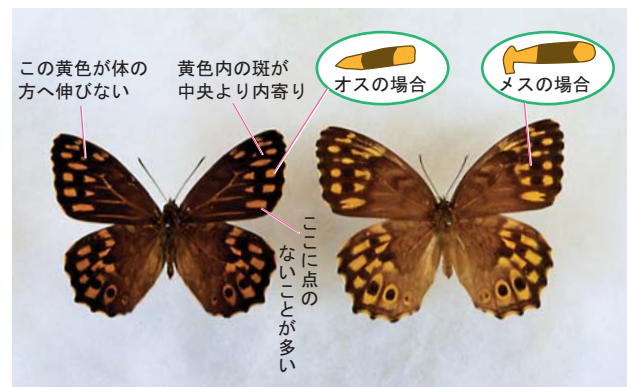
中央部に特殊な鱗粉（性標）があり、光線に透かしてみるとその部分が暗色を呈するので、オスメスは容易に区別できる。

## 類似種と見分け方

サトキマダラヒカゲ。

サトキマダラヒカゲは後翅裏面基部の3個の紋が一行にならぶ。サトキマダラヒカゲでは後翅裏面の全体に黒化が弱いが外縁部だけが極端に黒くなる。

また、サトキマダラヒカゲは前翅裏面第5室の眼状紋の外側に発現する淡色部（白斑）の現れ方が弱い。



ヤマキマダラヒカゲ。表（左がオス、右がメス）



ヤマキマダラヒカゲ。ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

この黄色が体の方へ伸びる  
黄色内の斑が中央（から外寄り）



サトキマダラヒカゲ。オス（左が表、右がウラ）

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期				■		■						
幼虫期				■	■	■						
蛹期	■	■	■		■	■	■	■	■	■	■	■
成虫期		■	■	■	■	■						

## 生育環境・分布

樹木の周辺や山道で普通に見られ、地面の湿地で吸水したり、けもの糞や腐った果物、樹液に集まるほか、シシウドやヒヨドリバナで吸蜜することもある。

**分布：**国外分布は、サハラ以南。国内分布は、屋久島

以北の日本全域。北海道内分布は、全域。

十勝地方では、平野部から山地の林で普通に見られ、数も多い。

## 繁殖生態・寿命

年1～2回発生（一部2化）。成虫は5月下旬～7月、（8月中旬～9月）に出現。越冬態は蛹。

母蝶はササやぶの中の低い位置のササの葉の縁に止まり、腹端を葉裏に沿わせて深く曲げ、15分から1時間をかけて5～30個の青白い卵を平面的に並べて産み付ける。

孵化した幼虫は集団を作り、刺激すると頭を振る習性がある。

若齢幼虫は集団生活をし、すだれ状の食痕を残すが、次第に単独生活に移行し、主として夜葉を食べる。蛹は地表の落ち葉下の粗く糸で綴った枯葉の中に弱くぶら下がるといふ。寿命：不明。

## 他生物との関わり

\*幼虫はチシマザサ（ネマガリタケ）、クマイザサを食草とする。

\*成虫はミズナラなどの樹液によく集まり、エゾノヨロイグサ、オオハナウド、アマニュウ、エゾニュウ、ノリウツギ、ヒメジョオン、アズキナシなどを吸蜜する。

\*また腐った果物やへび、カエルなどの死体、動物の糞、ヒトの汗などにも飛来して吸汁する。

\*天敵はシロオコブヒメバチ、ムナグロアカヒメバチ、シロスジトゲヒメバチなどの寄生蜂がヤマキマダラヒカゲに寄生するとされているが、サトキマダラヒカゲとヤマキマダラヒカゲのどちらの種に寄生するのかは明確でない。



ミズナラの木肌。  
この木の樹液に  
ヤマキマダラヒカゲは  
よく集まる

## 幼虫の食性（食草）

チシマザサ（ネマガリタケ）、クマイザサ。

## 興味深い話

■ヤマキマダラヒカゲとサトキマダラヒカゲは大変よく似た種で、昔はキマダラヒカゲという一つの種にまとめられていた。

■本州ではその名のおりヤマキマダラヒカゲは山地に多く、サトキマダラヒカゲは人里に多いといわれている

が、北海道ではこうしたはっきりした「棲み分け」は見られない。一般的に北海道ではヤマキマダラヒカゲの方が普通でサトキマダラヒカゲは少ないようだといふ。

■十勝地方のアイヌ語では、チョウ類一般を「マレウレウ」といふ。

## 配慮事項

ササ類などの食草のある林が必要。

### 参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990

「日本のチョウ」海野和男・青山潤三 小学館 1981

「原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶蛾編）」北隆館 1978

「北海道昆虫ガイド」北海道昆虫同好会 北海道教育社 1984

「学研生物図鑑 昆虫Ⅰチョウ」監修 白水隆 学習研究社 1983

「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986

「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅰ）」福田晴夫・浜栄一他 保育社 1982

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）  
草花

（外来種）  
草花

哺乳類

（水辺）  
鳥類

（草原・樹林）  
鳥類